

就労支援のケース検討におけるPCAGIP法の 適用について

- 早田翔吾 (ストレスケア東京上野駅前クリニック)
内田博之 (独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)

はじめに

就労支援とは？

疾患や障害 貧困などにより 仕事をする上で困難を抱える人
に対して 仕事に就き 継続するためのサポートを行うこと

支援者は 知識や経験を積んだ経験者からの助言や指導のもと
と 支援を行うことが通例である

筆者の保有する臨床心理士の実践においては スーパーヴィ
ジョン(以下SVと略す)といい カウンセリングのプロセスや相手
に対する態度などに関してベテランの先生から個人で指導を
受ける

この構造は 就労支援の実践と類似した構造である

SVの機能

SVには以下の3つの機能があるとされている

①：管理

面接者の構造や時間の枠がきちんと守られているかなど
ケースマネジメントが適切に行われているか

②：教育

面接技法や面接中の態度・姿勢について助言をする

③：支持

面接者が相談者と面接をするための活力を得る

→SVには集団で行う「ケースカンファレンス(ケース検討)」
がある

PCAGIP法とは何か？

Person Centered Approach Group Incident Processの頭文字から

→「人間性中心アプローチを基盤とした集団の内的力動のプロセス」と訳すことができる

対人援助職が自分自身で問題を解決したり新しい観点から事例を眺めたり自分自身の感情に向き合えるような事例検討法として村山正治氏が開発した

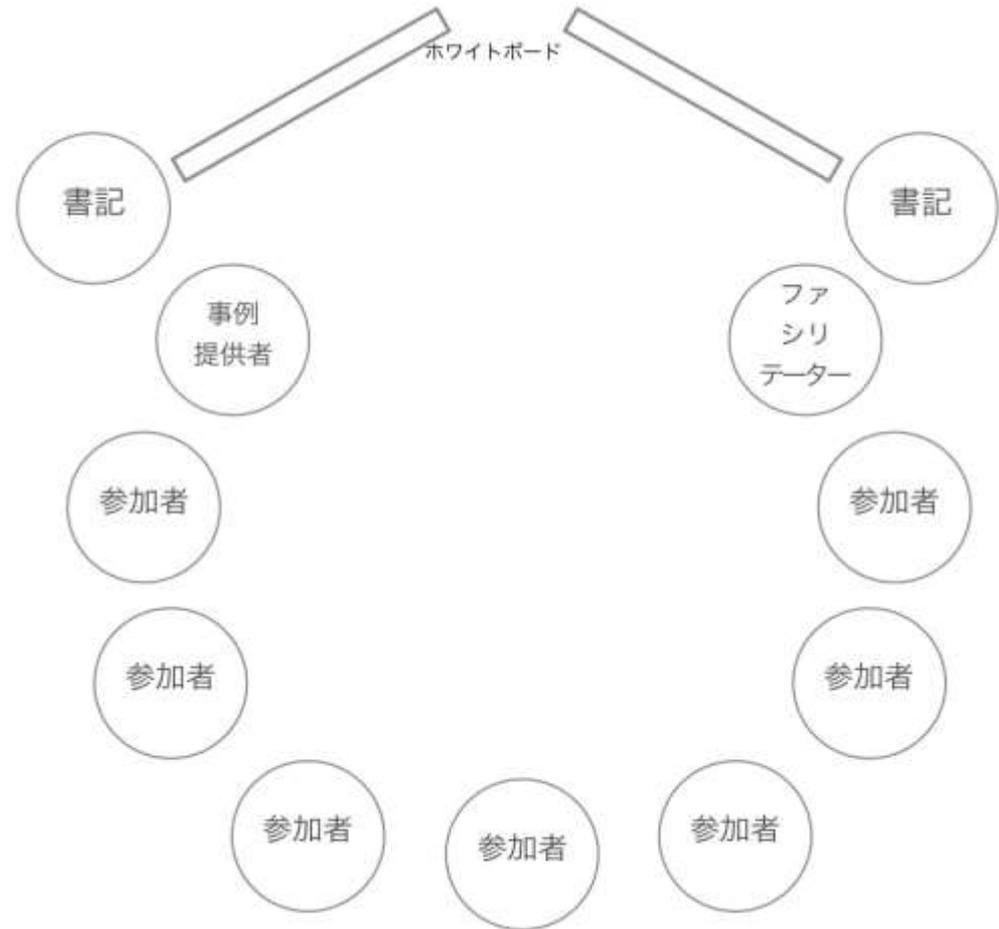
<特徴>

- ・参加者は安全な雰囲気の中で最大限に力を引き出し
- ・事例提供者の役に立つ新しい取り組みの方向や具体策のヒントを見出していくプロセスを共にするグループ体験

PCAGIP法の会場見取り図

グループの構造

- 事例提供者
- ファシリテーター
- 記録者 2名程度
- メンバー 8名程度



情報の可視化と情報共有のための黒板(ホワイトボード)2枚
参加者は全員が黒板が見えるように円陣を作る

PCAGIP法の実施手順

グループの約束事として下記の3つが挙げられる

- ①：事例提供者を被告にしない 批判しない
- ②：記録を取らないこと
- ③：正解を求めない 役立つヒントを見出していくこと

実施手順は右記の
とおりである

実施の手順

- ① 事例提供者は 事例を提供した目的 困っていること
どのようなことを検討したいかを簡単に述べる
- ② 参加者は 事例提供者及び事例をめぐる状況を理解するために 事例提供者に
質問し その応答を書記が黒板(ホワイトボード)に記録する
- ③ 発言者は順番を決めて 1人ずつ順番に発言していく
その発言に刺激されて 次の発言者が質問する連鎖が展開される
2~3順程度で 1時間~1時間半ほど経過する
- ④ ファシリテーターは状況を見て ホワイトボードの内容を整理する
- ⑤ 情報の整理に伴い 浅い質問から深い質問 事例提供者に対する
個人的質問などが出てくる
- ⑥ ファシリテーターは 多様な見方が出てくるように 自由な雰囲気を作る

クロージング

- ① 黒板(ホワイトボード)の内容をみんなで共有しながら 事例提供者がPCAGIP
体験プロセスの感想を述べてもらう機会を作り みんなで共有する
- ② 時間があれば 参加者各自の感想を述べてもらう

実践報告

2019年7月「就労支援の現場で使えるPCAGIP事例検討会」開催

開催場所：ストレスケア東京上野駅前クリニック

開催時間：16:00～18:30

参加者：事例提供者 内田博之氏（共同研究者）

メンバー8名(就労移行支援事業所スタッフなど)

ファシリテーター(筆者)

書記(クリニック看護師1名)

プログラム：参加者の自己紹介

PCAGIP法の実施手順の説明

事例検討

参加者の感想

参加者の感想および考察

参加者の感想を挙げ 考察を述べる

- 「様々な職種の人があり

各々の視点でサポートを検討することが出来た」

→PCAGIPの利点が大いに活用された感想である

- 「何をゴールにしているのか不明瞭だった」

→事例検討会の目的や方法を明確に参加者に伝えておく
必要性がある

- 「初対面だったので 発言しづらかった」

→事例検討会を開始するにあたりアイスブレイクなどの
導入が必要であると考えられた

今後の課題

- 支援者のメンタルヘルスに関して
→PCAGIP法を用いた事例検討会を行うことで
支援者一人の負担を減らすことができると考えられる
- 就労支援に携わるスタッフが自分の頭で考えて
ケースに対応するという姿勢を醸成するために
非常に有用なケース検討法であると考えられる
- 就労支援の現場にどのように浸透させていくか
→利点は多いものの浸透していないのが現状